

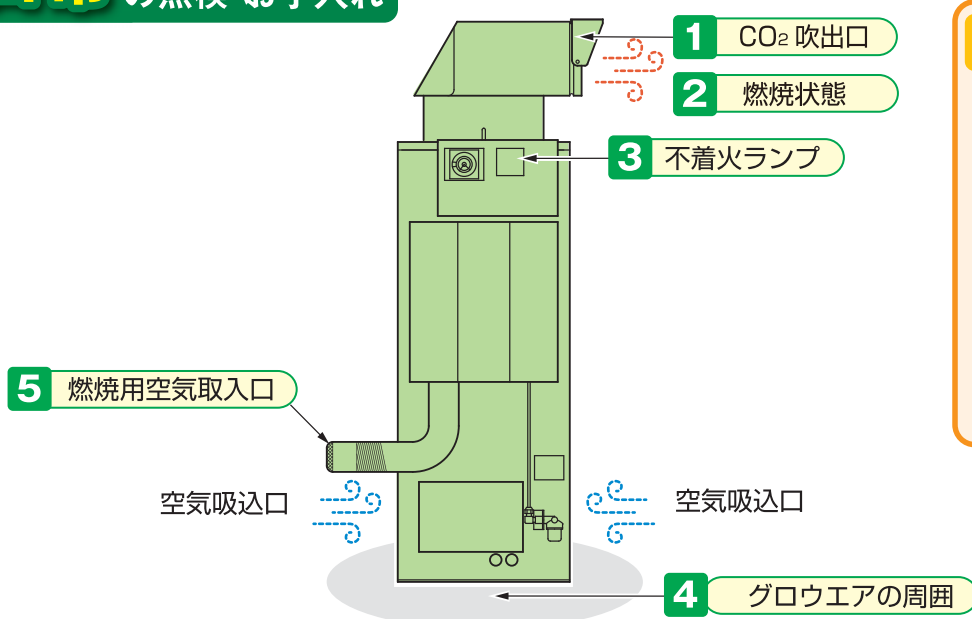
CO₂発生機（光合成促進機グロウエアシリーズ）



CO₂発生機は燃焼不良時には、**有害ガスが発生**するおそれがあります。

CO₂施用は植物の光合成を盛んにし、生育促進が図れる有効な栽培技術です。
ただし、使用方法を誤ると重大な事故を引き起こす可能性もあります。
使用にあたっては、取扱説明書の記載事項をお守りいただくとともに、
日常の点検や専門家による定期的な点検・整備を受けてください。

日常の点検・お手入れ



不完全燃焼警報ユニット

規定のCO濃度に達したときに機器を停止させ、警報音でお知らせします。



安全のために
ご使用ください。

1 CO₂吹出口



吹出口はふさがらない
ダクトを接続しない

2 燃焼状態



吹出口から煙がでて
いないこと。
異臭がしないこと

- 燃料の供給状態が悪くなったり、燃焼用空気取り入れ口と給気口がふさがり燃焼用空気の取り入れが不十分だったりすると、CO₂吹出口から煙や異臭が継続して発生します。
- 下表を参照して、原因を取り除いてください。
原因を取り除いても煙や異臭が発生する場合や、ご自身で対応できない場合は、お買い上げの販売店、またはお近くのネポン営業所にご連絡ください。

煙・におい	主な原因	状 況
煙 または においがする	異常燃焼	給気口がふさがっている
		CO ₂ 吹出口がふさがっている
		缶体に穴が開き、破損している

3 不着火ランプ(赤)



不着火ランプが点灯して
いないことを確認

4 グロウエアの周囲



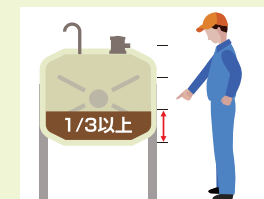
燃えやすいものの危険物
などは周囲に置かない

5 燃焼用空気取入口 給気口



空気取り入れ口と給気口が
ふさがれていないこと

6 燃料



- 油漏れの確認
- タンクに燃料が1/3以上あるかCheck

月に1~2回

の点検・お手入れ

●オイルタンクの水抜き

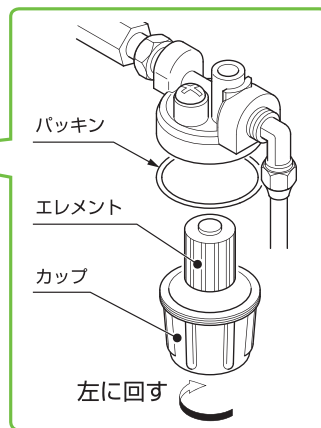


- ① 透明な容器をドレンバルブの排出口の下に置く
- ② ドレンバルブを開け、約200ccの水を抜く
- ③ 容器にたまった液体が分離していれば、灯油に水がまざっているので、一度容器を空にしてから再度、約200ccの水を抜く。これを分離なくなるまで繰り返す。
- ④ 水抜きが完了したら、ドレンバルブを閉める

●オイルストレーナの掃除



- ① オイルタンクの送油バルブを閉じてください
- ② 右図のようにカップをゆるめ、エレメントを取り出してください
- ③ エレメントをきれいな灯油で洗ってください
カップの中のゴミと水は捨ててください
- ④ 逆の手順で組み付けてください
- ⑤ オイルストレーナから油漏れがないか確認してください

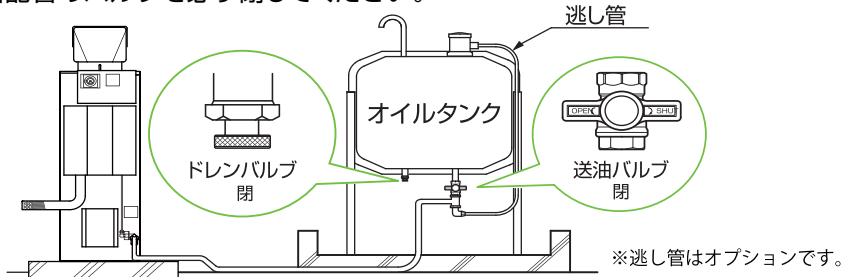


長期間使用しないときのお手入れ

油配管のバルブ操作

バルブを閉じると夏季の気温上昇で油が熱膨張し、本体部品や油配管などが破損するおそれがあり、危険です。逃し管の使用をおすすめします。

油配管のバルブを必ず閉じてください。



保管

以下のことを守って機器を保管してください。

- オイルタンクの灯油は、必ずシーズン終了時まで使い切ってください。長期保存すると変質します
- 雨水・ほこりがかからない 風通しの良い場所に保管する
- 自動機器に狂いが生じるような湿気の多い場所、腐食するような場所は避ける
- CO₂ 吹出口・空気取入口に防鳥・防虫のカバーを付ける
- 給気口は、枯れ葉などでふさがれていないことを確認して、グロウエア本体の周辺にまとめて保管する

専門家による定期的な点検・整備をしましょう!

専門家による 定期的な点検・整備(一例)



安全にお使いいただくために
1年に1度、定期点検を受けて
ください。

- 絶縁測定、整備
- 火災検出器測定、整備
- 消耗部品の確認、交換
- 燃焼ガスの成分測定
- 燃焼バランスの調整
- 日常の点検、管理ポイントをご説明など



お見積りや詳細については、ネポン営業所へお問い合わせください。